



離婚・リストラ 難問打開に尽力「磯岡」いそおか

磯岡 (?~1870) は、御三卿田安家の家臣（小普請支配組頭北村定五郎）の妹でした。文政5年（1822）に次として召し抱えられてから安政元年（1854）までの33年間、松平治好から慶永まで4代の藩主に仕えました。

天保12年（1841）、磯岡を名乗って松平慶永附（当時14歳）の**年寄**となり、大奥を取りしきりました。嘉永2年（1849）には、慶永は熊本藩主細川斉護の三女**勇姫**と結婚しますが、この頃の福井藩は財政改革の最中で、大奥にも厳しい儉約令がしかれていました。このため勇姫の暮らしぶりの変化に不満をもつ御附女中と慶永附の女中の間で対立が激しくなりました。慶永が帰国前に手渡した勇姫への教訓書をきっかけに、翌年5月、熊本藩龍口邸に出向き体調を崩した勇姫が戻らず、**離婚**問題にまで発展する事態となりました（『勇姫』熊本県立美術館）。

この問題の要因には慶永から勇姫の教育を任された**磯岡**と**勇姫**の確執もあったようですが、慶永の長文の手紙や**蓮性院**（細川斉樹正室、慶永叔母）や**松栄院**（松平斉承正室）からの働きかけによって、勇姫は常盤橋邸へ帰輿しました。

さらに福井藩はペリー来航の翌年、安政元年（1854）には海防費捻出を名目に大奥の**人員削減**を断行し、全体として20名ほどの女中が削減されました。その中には細川家からつき従ってきた園田・そちなどとともに**磯岡**が入っていました。